

## 2020年6月NHK四国地方放送番組審議会

6月のNHK四国地方放送番組審議会は、15日(月)、東京第一ホテル松山において、9人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、6月7日(日)に放送した「これでわかった！世界のいま」の内容について報告した。その後、事前に視聴してもらった、「四国つながるテレビ」を含め、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、7月の番組編成、放送番組モニター報告および視聴者意向についてそれぞれ説明があり、会議を終了した。

### (出席委員)

委員長	半井 真司	(四国旅客鉄道 代表取締役社長)
副委員長	柴田 智恵	(有限会社大豊陸送 代表取締役社長)
委員	神田 優	(NPO法人黒潮実感センター センター長)
	黒笹 慈幾	(南国生活技術研究所 代表)
	床桜 英二	(徳島文理大学 総合政策学部 教授)
	土佐 礼子	(三井住友海上火災保険 陸上競技部 プレーイングアドバイザー)
	中矢 憲吉	(愛媛新聞社 編集局次長)
	滑川 里香	(一般社団法人マチのコトバ徳島 代表理事)
	田井 ノエル	(小説家)

### (主な発言)

<「四国つながるテレビ」(松山局)

(総合 5月29日(金)放送) について>

- 社会全体が新型コロナウイルスと共生する必要性がある中で、市井の人々の身近な活動を取り上げたのはタイムリーだったと思う。一方で限られた時間の中、無理に四国4県の話題を取り上げるのではなく、例えば今回であれば「教育」のようにテーマを決め、取り上げる話題の本数を絞って紹介したほうが、視聴者の印象に残るものとなったのではないかと思う。新型コロナウイルスの影響で中止となった高知のよさこい祭りを取り上げていたが、そうであれば同じ理由で中止となった徳島の阿波おどりについても取り上げてほしかった。共通の内容や課題についての事例を取り上げ、そ

こから解決策を探るような視点がほしいと感じた。出演者自身によるリモート撮影は、新型コロナウイルス感染拡大下の取材方法の一つとして大きな役割を果たしたと思うが、撮影を本人にゆだねることで、客観性が担保できなくなる危険性があると感じている。今後はそういった点も留意し、必要に応じて活用すべきだと思う。

- 新型コロナウイルスの感染拡大により取材や中継が困難になる中で、出演者自身によるリモート撮影などの番組制作の工夫が見られて好感を持った。一般の方自身によるリモート撮影により、自然体の表情が出ているように感じられた。ただ画質の悪さが気になる場面や、人により撮影技術にばらつきがあったのが気になった。出演する方に撮影を依頼するにあたり、どのような指示やサポートをしているのかが気になった。リモートで出演したゲストへの照明の当たり方がいまひとつで、暗く見えたのが気になった。高知のよさこい祭りの振り付け師たちのグループ「よさこい8」のオンライン会議の様子は、とてもパワフルで元気をもらえた。ただ「よさこい8」がどのようなグループなのか、もう少し説明がほしいと感じた。またオンライン飲み会の場面で、酒の飲み方にあまり適切ではない点があり気になった。全体としては楽しく笑える場面もあり、視聴者を元気にする番組になっていた。
- 今の四国の人々がどのように過ごし、人とのつながりを持っているのかがよく分かる番組だった。松山市立北条北中学校の安居博之先生は、明るい人柄や生徒への熱い思いが見ていて伝わってきた。入学後、学校に通うことができない新入生に向けたビデオメッセージや週1回の家庭訪問などの工夫がしっかりと紹介されていたと思う。ゲストの三山ひろしさんが披露したけん玉はとてもすばらしく、見ていて元気が出た。高松市立太田中学校校長の臼井隆先生が、手作り弁当を学校のホームページに毎日掲載している取り組みは、生徒や親に先生を身近に感じてもらえるよいものだと感じた。祭りの中止を受け、「よさこい8」がよさこい祭りをオンライン開催したという話題は、時間が短く拍子抜けした。徳島で食料品店を営む山口由紀子さんは、画面越しでもとても元気な様子が伝わってきた。店頭で固定カメラを設置し、地域の日常生活をかいま見ることができたのもおもしろかった。全体としては香川と高知の取り組みの紹介が短く、取って付けたような印象があった。出演した一般の方をどのように決めたのか気になった。
- 「つながり」をキーワードに、新型コロナウイルスの感染拡大の中、四国の人々がどのように過ごしていたのかを取り上げていた。出演者によるリモート撮影などを織り交ぜて、四国の人々のリアルな生活が映し出されていたように感じた。スタジオでは多くの人々の写真が掲出されていたが、実際に取り上げた方をどのように決めたのか気になった。徳島の大歩危駅前で食料品店を営む山口さんは、画面から明るい人柄

がにじみ出ており、楽しそうに地域を元気づけていて印象に残った。カメラ付きパソコンを食料品店の店頭に設置し、NHKと店頭をつないで会話する様子も見ていて楽しく、オンラインを用いた過疎地域の活性化の可能性なども感じられ、よい取り組みだった。放送時間があつという間に感じられ、見ていて元気がもらえる番組で好感が持てた。香川と高知の取り組みの紹介が短くて気になったので、よさこい祭りのオンライン開催のその後など、今後の情報発信に期待している。

#### (NHK側)

緊急事態宣言が4月に全国に広がり、県をまたいだ移動や不要不急の移動の自粛が求められる中でも制作できる番組として、出演者によるリモート撮影の手法を取り入れて制作した。取り上げた方々は、ディレクターがこれまでの取材で得た人脈や知識を生かし、番組のテーマにあった方を選ばせてもらった。限られた時間ということもあり、今回は愛媛と徳島の話題が中心となり、高知と香川の話題の時間が短くなってしまったが、今後の番組でその2県の話題の取材・発信に取り組みたいと考えている。四国4県の話題をどうバランス取って伝えるかは、引き続き検討を重ねるとともに継続的な情報発信を行うことで、偏りなく発信していると視聴者の方に感じてもらえるように努力していく。リモート撮影で収録した映像の画質の悪さについては、放送用設備の映像と比べれば見にくかった部分があったかもしれない。一方で、新型コロナウイルスの感染リスクが完全に収まらない中では、引き続き取材手法の一つとして取り入れる必要があると感じている。出演者本人による撮影については指摘を考慮しつつ、今後もリモート撮影の長所を生かして、活用していきたいと考えている。

#### (NHK側)

新型コロナウイルス感染拡大の中で、人との「つながり」を大切にしながら頑張って日々の生活に取り組む人たちの姿を見せることで、視聴者の方が元気をもらい、楽しい気持ちになってもらいたいという思いで制作に取り組んだ。出演者本人による撮影をどのようにサポートしているかについては、ディレクターがリモートをつないだ際に都度注意点などを説明している。今後のよさこい祭りの展開については、この番組にとどまらず、高知局と連携して取材・発信を行っていききたいと考えている。

- 大変な状況を明るく前向きに乗り切ろうとしている人々をとらえていて好感を持った。徳島の山口さんは活発な姿や地域への思いを語ることで素敵な人柄が出ていて、実際に会ってみたいとなった。店頭でカメラを設置し、地域の人々の自然な姿を取り上げていたのもよかった。よさこい祭りの中止を受けて、オンラインでの「世界総踊り」の開催は、新型コロナウイルス感染拡大下の逆境を逆手に取った画期的なもので、実際に現地で体感するしかなかった祭りに、オンラインで世界中どこからでも参加できるようになったことは、未来に向けた可能性を感じるものだった。このような取り組みが四国から立ち上がったことを頼もしく感じた。臼井校長の弁当の取り組みは、盛り付けが豪華すぎて本当に毎日掲載しているのか気になった。もう少し補足が必要だったのではないかと感じた。ゲストの三山さんは、けん玉の技はとてもしばらしかったが、その他では十分にスタジオと絡めていたとはいえ、ほかのリモート出演の方のほうが印象的で残念だった。
  
- 「つながり」をテーマに四国の人々の今の生活を紹介するという意図はよかったと思う。一方でリモート撮影を中心とした番組構成は、視覚的な目新しさはあったものの、テーマの掘り下げにおいては不十分に感じた。リモート撮影の映像は、画質や撮影技術において見にくい場面もあり、もう少し質を高めてほしいと感じた。新型コロナウイルス感染拡大期における番組制作のガイドラインがあったのかが気になった。香川と高知の話題は取って付けたような印象で、無理に4県の話を取り上げずともよかったのではないかと感じた。愛媛の安居先生と徳島の山口さんは、特徴的な人柄もあって番組に欠かせない強い印象を与えていたと思う。臼井校長の弁当の話題は、取り組みを始めたいきさつなどをもっと詳しく知りたかった。高知の「よさこい8」はオンライン飲み会の印象だけが残りで、もう少し取り組みを丁寧に紹介してほしいと感じた。ゲストの中には、取り上げ方が気になる方もいた。取材の制約を逆手に取るような演出の工夫がほしいと感じた。
  
- 休校中の生徒を心配して家庭訪問に取り組む安居先生や、休校明けに前向きな気持ちで学校に来てほしいと弁当を毎日ホームページに掲載している臼井校長の様子からは、それぞれの人柄が出ていて、見ていて心が打たれた。生徒や親にとっては、休校中の先生がどのような取り組みを行い、どんな苦悩があったのかが理解できるよいものだったと思う。今回のように、日々を懸命に生きている四国の人々を取り上げ、勇気づける内容の番組を作ってほしい。ただ、全体としては内容のばらつきが大きくて統一感がなく、意図が伝わりにくくなっているように感じた。今回であれば「学校教育」を軸に、四国4県の取り組みを紹介したほうがよかったのではないかと感じた。テーマを統一したほうがゲストのコメントも的確になり、出演の意図もよりはっきりしたのではないかと感じた。リモートでスタジオとつなぐやりとりがなかった話題もあり、取

り上げ方に濃淡があったので、もう少し見せ方を工夫してほしい。

- 新型コロナウイルス感染拡大下の四国で、人々の元気な姿をリモート撮影で紹介していて、時流に合っていると感じた。安居先生のもどかしさと、新入生たちの戸惑いが画面を通じてよく表現されていたと思う。ただ学校の体育館からのリモート中継は、照明の当たり方が悪く、少し怖い感じに見えたのが残念だった。臼井校長の弁当の話はすぐに終わった印象で、もう少し掘り下げて見せてほしいと感じた。よさこい祭りのオンライン開催に向けたリモート会議の様子では、画面から「よさこい8」のみなさんのとてもエネルギッシュな感じが伝わってきた。途中からスタジオとリモートをつないだ徳島の山口さんはとても明るく元気で印象に残ったが、同じくリモートをつないでいた安居先生の印象が薄くなってしまったように感じた。また高知と香川からのリモート出演が無かったのも気になった。三山さんの十連けん玉の大技は圧巻で、番組が活気づいたと思う。今後の放送にも期待したい。
- 新型コロナウイルスにより社会全体への影響が長引いている状況の中で、見ていて元気の出るものになっていたと思う。本人による撮影は、結果的に映像に説得力を持たせていたし、三山さんのけん玉披露も見ていて元気づけられた。休校中の先生たちの苦労や努力もよく伝わってきた。休校明けの学校の体育館からのリモート中継に生徒たちとともに安居先生が参加している姿からは、少しずつだが日常生活が戻っていることが感じられ、感慨深いものがあった。臼井校長の弁当画像のホームページ掲載も、小さな取り組みの重要性を感じるもので考えさせられた。徳島の山口さんが集落の活性化のために、地元の方が作った食料品の販売や手洗い運動を発案して取り組む姿には心打たれるものがあった。よさこい祭りのオンライン開催は興味深かったが、ほかの取り組みとは性質が異なっているように感じた。阿波おどりや、ほかの中止となった祭りとまとめて別の機会に紹介したほうがよかったのではないかな。番組を通じて四国の一体感を醸成してほしい。
- 人がどのように「つながり」を持って幸福感を保つのかという問題を、リモート撮影を駆使して伝えたよい番組だった。四国4県のそれぞれの話題を取り上げていたが、それぞれの地域の特徴が色濃く出ていて興味深かった。ゲストの三山さんによる歌やけん玉の披露も印象に残った。三山さんのけん玉の極意、「焦らず慌てず諦めず」は、新型コロナウイルス感染拡大下の今にぴったりの至言だと感じた。安居先生が生徒たちのことを思って家庭訪問などに懸命に取り組む姿からは、教育に対する情熱が感じられ心打たれた。保護者や地域とのつながりについても見たいと感じた。また臼井校長が弁当の画像をホームページに掲載している取り組みは、弁当作りの様子や家族との話題が聞きたいと感じた。「よさこい8」のメンバーによるよさこい祭りのオンライ

ン開催の話題は、そのスピード感と行動力には感銘を受けた。徳島の山口さんはとても明るくエネルギッシュで、山口さんが地域で行っている取り組みに焦点を当てた番組を見たいと感じた。

- 緊急事態宣言下において人との接触機会が制限される中で、どのように人とのつながりを確保するのかという、コロナ時代の核心を突いたような企画で意義深く感じた。リモート撮影などの新しい取材手法を用いていたことも興味をひかれた。愛媛の中学校の話題は十分な取材がされていることが見ていて分かり、よかったと思う。徳島の食料品店の話題も、ディレクターとのやり取りを通じて伝えたい内容がはっきりと表現されていた。一方で、リモート撮影のみで短く紹介した香川と高知の取り組みは何を伝えなかったのかいまひとつ分かりにくかった。ゲストの三山さんは、リモート出演ながらも的確なコメントや個性が光り、スタジオのアナウンサーとの掛け合いもスムーズで、安心して見ることができた。出演者によるリモート撮影の映像の中で、マスクを着用せずに会話していたり、人が密集したりしている様子が映り込んでいたりして気になった。出演者が不利益を被る可能性があるので、制作側としてもその点も十分にフォローしてほしいと感じた。

#### (NHK側)

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、NHKの放送現場では事態に対処するための取材・収録態勢を構築してきた。松山局では4月上旬に部内で取材や収録に関わるルールを定めた。取材にあたってはマスクを着用するなど、取材者自身の感染防止対策を徹底し、都道府県をまたいだ取材は公共放送の使命を果たす上でどうしても必要な場合に限り、かなり抑制的に行うこととした。こうした中ではあったが、地元の県の情報の取材・発信にシフトした態勢を構築し、新型コロナウイルスが地域に与えた影響など、これまで以上に地域のことを掘り下げて取材・発信できたと感じている。5月以降、緊急事態宣言の解除や感染状況の変化を受け、松山局では取材や収録に関わるルールを見直した。リモート出演や出演者自身による撮影は、新型コロナウイルスの感染リスクが完全に収まらない現状では継続していく必要があると考えており、従来の制作手法と併用しながら最適な方法を探っていきたいと考えている。

#### (NHK側)

さまざまな取材方法を検討し、今回のリモート撮影を用いた構成で番組を制作した。スタジオと四国4県を同時にリモートでつなぐ

ことは、演出的・技術的に負担が大きく今回は実施しなかったが、今回の経験を生かして今後の検討事項としたい。休校中の学校の取り組みについては、公共放送として伝える意義があったと考えている。ゲストの三山さんは、高知県出身で四国への強い思いを持っており、四国のNHK各放送局制作番組に多く出演してもらっている。

#### <放送番組一般について>

- 6月5日(金)のひめDON!「愛媛のY o u T u b e rを調査!」を見た。愛媛県内で活動するユーチューバーたちを紹介するという今どきの話題で、ふだんの「ひめDON!」よりくだけた内容だと感じた。番組告知を見たときは、自称“愛媛ナンバーワン黒ギャル”のゆ〜ちょぱさんの派手なメイクに度肝を抜かれたが、番組を見て、とても誠実で心優しい女性であることが分かった。東京から大島にUターンしたしゅうへいさんが、地元の人との触れ合いを通じて生きがいを見出していくようになったというエピソードは、若者の成長物語を見ているようで心が洗われるようなすがすがしさを感じた。登場したユーチューバーのみなさんには、ぜひ今後も愛媛からさまざまな発信を続けてほしい。
- 同じく6月5日(金)のひめDON!「愛媛のY o u T u b e rを調査!」を見た。黒ギャル、山奥暮らしの男性、400万円の借金を抱える男性と、いずれも独特のキャラクターが印象的だった。それぞれの人生を深く知ることができて興味深かった。ユーチューバーの収入や、発信の工夫、苦悩などについても詳しく知りたかった。NHKの番組ではあまり目にしない人たちが登場し、斬新だと感じた。全体を通して、本当の豊かさとはなにかを考えさせられるよい内容だった。
- 6月7日(日)の「これでわかった!世界のいま」を見た。黒人男性が警察官に押さえつけられて死亡したことを発端にアメリカ全土で広がった抗議デモについての解説の中で、デモの背景をまとめたアニメの表現に配慮が欠けていたことは残念だった。2015年の番組放送開始からこの番組をよく見ていたが、「Mr.シップ」というキャラクターが解説するアニメは大げさに誇張して表現しているような印象を持っていた。ただ毎週視聴するうちに次第に見慣れ、あまり気にならなくなっていた。問題の原因の一つに、制作者にもこのような「慣れ」があったのではと感じた。海外のニュースを分かりやすく伝えるいい番組ただだけに残念に思う。より丁寧に伝えるよう心がけてほしい。

- 同じく6月7日(日)の「これでわかった！世界のいま」を見た。問題となったアニメについて、なぜ放送前に防ぐことができなかったのか、チェック体制が整えられていたのか疑問に思う。人種差別の問題は、意図しなくても相手が差別を受けたと感じることがあるため、相手がどう感じるかということに想像力を働かせ、放送前に慎重に精査してほしい。公共放送として再発防止にしっかり取り組んでほしい。

(NHK側)

今回の問題を受けて、人権や多様性に対する認識が不足していたと痛感した。番組制作者の感性を研ぎ澄ませていくよう研さんを重ねたい。

- 6月12日(金)の軽四キャンピングカーがゆく「四国のみなさん 元気ですか？再会スペシャル」を見た。新型コロナウイルスの影響でロケに行けない中、旅人の藤原薫さんが東京の自宅からリモートで出演するという内容だったが、特に違和感なく視聴することができた。これまでの旅で出会った人たちの近況が分かり、心温まる内容だった。大月町の飲食店は火災に遭い、さらに新型コロナウイルスの影響で客足が遠のく中でも、テイクアウトメニューの販売を始めるなど、前を向いて進んでいることがよく伝わってきた。飲食店から届いた豚肉を藤原さんが調理して食べる場面は盛りつけを工夫するなど、もっとおいしそうに見えるようにしてほしい。香川県の農家から届いたにんにくを使い、藤原さんがリモートでサポートを受けながら調理する場面でも、にんにくを切る作業に30分もかかっていたり、味の感想もあいまいだったり、不慣れさが目に付き気になった。ホームページで調理方法を紹介していたのはよかったと思う。軽四キャンピングカーで四国中を旅する藤原さんを、再び見られることを楽しみにしている。
- 「軽四キャンピングカーがゆく」は、キャンピングカー本来の魅力を伝え切れていないと感じる。キャンピングカーに備わっている機能を十分に生かしたり、宿泊場所周辺の自然と触れあったりする姿をもっと伝えてほしい。新型コロナウイルスの影響もあり、キャンピングカーは災害時の分散避難に有効だという見方もある。そのような時勢も踏まえ、従来の内容にとどまらず、視点を変えた内容も取り上げてほしい。
- 6月13日(土)のE TV特集「引き裂かれた海～長崎・国営諫早湾干拓事業の中で～」を見た。漁を諦め干拓地で農業を始めた元漁師や、干拓事業を受け入れて漁業補償協定に調印したことを後悔し続けた漁協の元組合長など、巨大公共事業の中で人々が揺れ動きながらどのように生きてきたのかが丁寧に描かれていた。干拓事業を受け入れても、「漁業の水揚げ高は2割減ほどで済むだろう」という国や県のことばを信じ



た漁業関係者が、後悔し続けているという話には胸が痛んだ。事業をめぐり、今後さまざまな裁判が続くが、この問題はどこへ向かっていくのか混沌として見えないと感じた。非常に考えさせられるよい内容だったが、番組の真意が見えにくいと感じた。国や県に対してもう少し踏み込んだ取材をしてほしかった。

- 「グレートトラバース3 日本三百名山全山人力踏破」は、プロアドベンチャーレーサーの田中陽希さんの脚力と登はんスピードとともに、プロの登山家をカメラマンに起用して撮影された映像にも驚かされる。どんなに厳しいルートでも密着して撮影した映像と、ドローンで撮影した映像を効果的に織り交ぜており、視聴者は現場の息遣いと山岳の絶景をテレビの前に居ながらにして楽しめる。プロの登山家をカメラマンに起用してまでもその場の映像を記録したいという制作者の思いが伝わってくるすばらしい番組だと思う。
- 大河ドラマ「麒麟（きりん）がくる」を見ている。新しい側面から明智光秀にスポットを当てており、若い世代を含めて多くの世代にも楽しんでもらえる内容だと思う。新型コロナウイルスの影響で、6月14日(日)で放送を中断するという事になったが、中断の期間を有効に使い、新しい視聴者を取り込めるような工夫をしてほしい。
- 新型コロナウイルスの影響で、出演者の間に透明なアクリル板を置くなど感染防止対策に工夫を凝らした番組が増える一方、出演者どうしが近づく場面などでは、対策が不十分ではないかと心配をすることもある。視聴者の間で、このような新しいテレビの見方が生まれつつあると感じている。リモートでゲストが出演したり、一般の方が撮影した映像が放送されたりすることに視聴者も慣れてはきていると思うが、妥協せず今まで以上に映像や音声にこだわり、よりよい番組をつくってもらいたい。
- 民放のテレビ番組を見ていると、グラフの表現が不適切で視聴者に誤った印象を与えることがあったり、過去の写真を持ちだしてあたかも現在のことのように取り上げていたり、誇大な表現が気になることがある。ただ、NHKの番組ではそのようなことがなく、安心して見ることができている。これからも視聴者を誘導するような表現を避け、真摯でしっかりとした番組作りに取り組んでほしい。
- 今後の観光事業を考えると、大勢が集まるような観光施設より、比較的人が少ない地方で自然体験型の観光が定番になってくるのではないか。四国は自然も食も豊かで絶好の土地だと思う。密集している都会から地方へ、生活圏を移す人も増えると考えられる。こうした状況を踏まえ、NHKには四国の魅力をぜひ全国に発信してもらいたい。

NHK松山拠点放送局  
番組審議会事務局

## 2020年5月NHK四国地方放送番組審議会

5月のNHK四国地方放送番組審議会は、18日(月)、NHK松山拠点放送局(ウェブ開催)において、10人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、前回の審議会での答申を受け、「2020年度四国地方向け地域放送番組編集計画」を決定したことの報告があり、これに基づいて策定した「2020年度四国地方向け地域放送番組編成計画」について説明があった。引き続き、「2019年度四国地方向け放送番組の種別ごとの放送時間」について報告があった。続いて、事前に視聴してもらった、四国各局の金曜夜7時台の県域番組について活発に意見の交換を行った。

最後に、6月の番組編成、放送番組モニター報告および視聴者意向についてそれぞれ説明があり、会議を終了した。

### (出席委員)

委員長	半井 真司	(四国旅客鉄道 代表取締役社長)
副委員長	柴田 智恵	(有限会社大豊陸送 代表取締役社長)
委員	神田 優	(NPO法人黒潮実感センター センター長)
	黒笹 慈幾	(南国生活技術研究所 代表)
	床桜 英二	(徳島文理大学 総合政策学部 教授)
	土佐 礼子	(三井住友海上火災保険 陸上競技部 プレーイングアドバイザー)
	中矢 憲吉	(愛媛新聞社 編集局次長)
	滑川 里香	(一般社団法人マチのコトバ徳島 代表理事)
	西本 佳代	(香川大学 大学教育基盤センター 准教授)
	田井 ノエル	(小説家)

### (主な発言)

#### <ひめDON！

「新型コロナウイルス全20市町徹底調査 いま私たちにできること」

(総合 愛媛県域 4月24日(金)放送) について>

○ 明るく希望を感じられる内容でとてもよかった。新型コロナウイルスの感染拡大によって苦しい状況と向き合っている事業者が多い中、自分たちにできることを模索し

て前向きに活動している人々にスポットを当てており、元気をもらった。県内の各市町の状況について、取材した映像とスタジオのパネルを使って紹介するという工夫があり、25分という短い放送時間ながらメリハリのある構成だった。自治体独自の補助金制度の紹介も、視聴者に有益な情報だったと思う。西予市では、2018年の西日本豪雨災害をへて生まれたつながりを生かし、市役所職員が地元の企業を訪ねて声を聞くという活動が続けられていることを取り上げていて、胸が熱くなった。松山局のホームページから受け付けた視聴者の声を画面下部で紹介していたことも、時宜にかなっていてよかった。首藤奈知子アナウンサーは、柔軟にテンポよく番組を進行しており、多くの情報をうまくまとめていたと思う。ただ、「20市町徹底調査」というタイトルの、「徹底」ということばはやや大げさな印象を受けた。

- 新型コロナウイルスに関する放送では、感染者や死亡者の数、外出自粛による経済活動の停滞など、不安が募るような内容が多いと感じるが、この番組は明るい雰囲気でも好感を持てた。さまざまな業界が苦境に立たされながらも知恵を絞り、現状を打破しようと奮闘する様子がよく伝わってきた。給食用に出荷する予定だった10トンもの愛南町の河内晩かんが、SNSを通じた人と人とのつながりによって廃棄の危機を回避したというエピソードでは、生産者の前向きな姿にとても勇気づけられた。西条市の観光農園について、ナレーションで「経営が危ない」と表現していたが、「厳しい」という言い方のほうがよかったと思う。画面下部に表示されていた視聴者の声は、番組を視聴しながらすべて読むことは難しいと感じた。
- 困っている人の声をただ報告するのではなく、打開策となる取り組みを紹介しており、番組全体が前向きな内容でよかった。いちご狩り客の減少により余ったいちごを冷凍して販売する観光農園やSNSの力で廃棄を免れた河内晩かん、梅シロップなど、成功事例がテンポよく紹介され、この苦境を乗り越えようという気持ちがしっかりと伝えられていた。後半の一部の出演者が行っていたスケッチブックに自らの思いを書くのはとてもよい演出で、出演者全員にやってほしかった。県内各地から寄せられたさまざまな声を、スタジオのパネルに貼り出していたのも分かりやすかった。首藤アナウンサーと山口寛明アナウンサーは声の抑揚だけでなく、取り上げる話題に合わせて表情を変えていた点もよかった。コメンテーターの肩書きと名前は、もっと大きい字で長い時間表示したほうがよかったと思う。
- 不安な気持ちにさせられるような内容の番組が多い中、自分たちにできることを懸命に模索している様子が見られてよかった。感染の拡大を受けて、アナウンサー自身が行っていることを紹介する工夫に親近感がわいた。首藤アナウンサーと山口アナウンサーが2メートルほど間隔をあけて話していたり、リモートでインタビューを

行なっていたり、感染拡大を防ぐための対策が随所に見られた。一方、取材で取り上げていた人のマスクがずれていたり、手作りマスクの販売会が対面方式で行われていたりしたことは、見ていて気になった。感染対策については人々の意識が敏感になっているので、取材相手の行動を視聴者がどのように受け止めるかについても十分に考慮してほしい。テイクアウトができる内子町の飲食店を紹介する活動については、番組では「サイトを立ち上げて」と紹介していたが、実際に映っていた画面はSNSでの発信のみだったので気になった。

- 県内全20市町への調査や、視聴者からの投稿をもとに、地域や生活に密接した身近な話題を取り上げていた。「自粛疲れ」ということばが広がっている状況下で、このような明るい雰囲気番組は視聴者にとっては安心して見ることができたと思う。
- 新型コロナウイルスの感染拡大によって多くの人々が苦境に立たされる中、「いま私たちにできること」という視点で、当事者に寄り添う前向きな姿勢に感銘を受けた。番組のセットや首藤アナウンサーの衣装も明るい雰囲気、見ていて気疲れしなかったのもよかった。
- 県境で暮らす人々がお互いの文化を尊重しあっていることが、明るい雰囲気ながらもしっかりと紹介されていてよかった。このような企画を四国4県に広げれば、四国全体を盛り上げていくことができると感じた。今後期待したい。
- 西予市の職員が涙ながらに話す姿が特に印象に残った。西予市や大洲市には、2018年の西日本豪雨の災害からやっとの思いで立ち上がったばかりの事業者が多くいるため、地域の現状を国に訴えるような意見も取り入れてほしかった。画面下部に視聴者から寄せられた声を表示していたが、番組の映像と同時に見るのはストレスを感じた。より多くの情報を届けたいという意図は理解できるが、見やすいように工夫がほしかった。全体を通して、視聴者に前向きな気持ちになってほしいとの制作者の思いが感じられてよかったが、医療現場や飲食店など大変な状況に置かれている人々の悲痛な叫びを伝えることも求められていると思う。

(NHK側)

「いま私たちにできること」というテーマは、平日夕方6時台のニュース・情報番組「ひめポン！」でコーナーとして展開してきた。かつてない危機の中、少しでも前向きになれるような取り組みを広く募集し、全20市町を取材した。タイトルの「徹底」ということばは、25分という限られた時間の中でもたくさんの取り組みや

人々の声を拾い上げたいという制作側の姿勢を込めて付けた。また、視聴者から寄せられた声をなるべく多く紹介したいと思い、画面下部に表示させた。これからも感染防止に心がけながら、丁寧に取材していきたい。

くとき金「新型コロナウイルス 暮らしは 経済は」

(総合 高知県域 4月24日(金)放送) について>

- 番組冒頭の明かりが消えた高知市内の繁華街の映像は、一目で経済状況の悪化が分かる映像だと感じた。人の移動が減ったことで経営が悪化しているバス会社や、相次ぐキャンセルで休業を余儀なくされている旅館の状況からは、先の見えない状況に対する不安や切実な思いがよく伝わってきた。人とのつながりに力をもらったというカフェを営む女性のエピソードや、テイクアウトを実施している飲食店を紹介するウェブサイトができたことなど、前向きな話題もあってよかった。高知大学の受田浩之副学長の話は、番組全体を総括するのにふさわしく、困難な状況を乗り越えるために有効なアドバイスだと感じた。視聴者から寄せられた質問に答えるコーナーについては、どのような方法で質問を募集したのか説明がほしかった。高齢者が多い高知県の実情に合わせ、SNSやインターネット以外の方法で、人とのつながりを維持する工夫なども紹介できればよかったと思う。教育や医療など、他の分野についても今後取り上げてほしい。
- 全体を通して高知県らしい切り口がなく、残念だった。中止となった「よさこい祭り」や「まんが甲子園」などの関係者の取材、クラスターが発生した宿毛市の地域経済への影響、中山間地域の人々の暮らしなど、地元の人々の興味関心に応えるような話題を取り上げてほしかった。地域放送の番組では、全国のニュースや番組で紹介されるものとの差別化が必要だと思う。飲食店100軒へのアンケートについては回答数が少なく、実態を反映しきれていないのではないかと疑問を感じた。ゲストの「地域のネットワークを活用して、生産が必ず消費につながる世界を作ることが重要だ」という発言は、目の前の生活に不安を感じている人が多い中、現実に即していないように聞こえた。番組名ももっと工夫がほしかった。

(NHK側)

視聴者から寄せられた質問に答えるコーナーは、平日夕方6時台のニュース・情報番組「こうちいちばん」などで毎日募集を呼びかけるとともに、高知局のホームページなどでも質問を募ってきた。回答については定期的に「こうちいちばん」の中で紹介している。

高知県ならではの切り口が不足しているという点については、放送日の段階では「よさこい祭り」をはじめ、多くのイベントの開催が未定だったため、取材をするのが難しかったという背景もあった。新型コロナウイルスを取り巻く状況は日々刻々と変化しているため、その都度テーマをしっかりと決め、視聴者に伝えるべきことは何かを考えていきたい。

(NHK側)

全国放送との差別化や地域放送の役割など、非常に重要な指摘をいただいた。高知から四国全体、日本全体の役に立つような情報発信を今後もできるように努めていきたい。

<あわとく「コロナショック どうなる？徳島の暮らし・経済」

(総合 徳島県域 4月24日(金)放送) について>

- 徳島県内の経済が受ける深刻な影響に焦点を当てた内容になっていた。地元の大手バス会社や、インバウンドを受け入れてきたホテルの関係者へのインタビューを通じて、厳しい経営状況や将来への不安が生々しく伝わってきた。事業者を実名で紹介することで、視聴者は新型コロナウイルスによる影響の厳しさが現実味を持って感じられたと思う。スタジオでは、さまざまな業種の状況を、パネルを用いながら具体的な数値とともに紹介しており分かりやすかった。客足が遠のいた飲食店の取り組みとして、テイクアウトや通信販売を始めたことが紹介されていたが、特に目新しい点は感じられなかった。新しい取り組みを取り上げてほしかった。ゲストのコメントは表面的な印象を受け、残念だった。新型コロナウイルスの影響下での教育問題や災害への備えなどについても、日々のニュース番組だけでなく、特集番組などにおいてもしっかりと掘り下げて伝えてほしい。
- 県内の苦しい状況がよく伝わってきただけでなく、この苦境を乗り越えようと前向きに頑張っている人たちを取り上げていた点を評価したい。新型コロナウイルスに関する暗い話題が続く中、困難な状況を生き抜こうとしている人々の姿を伝えたことは、多くの視聴者に勇気を与えたと思う。これからも地域の人々の心に寄り添い、地域の応援団となるような放送局であり続けてほしい。ただしリモートで出演したゲストの音声が非常に聞き取りにくかった。今後もこのような出演形態が続くと予想されるため、不慣れな出演者のサポートを徹底してほしい。全体を通して、県内の今を知ることができるといい番組だったと思う。

(NHK側)

徳島県は感染者数の累計が本日時点で5人と、全国的に見ても少ないが、それでも暮らしや経済に甚大な影響や被害が生じている。そういった点についてデータなどを交えてふかんにしっかりと紹介する番組を制作しようと心がけた。ただ厳しい現実を突きつけるだけではなく、前向きな姿勢や意気込みも意識して取り上げるようにした。今後も、毎年県内各地で開催される阿波おどりへの影響など、さまざまなテーマについて継続的に制作していきたい。リモート出演者の音声が聞こえにくかった点については、制作側が十分に習熟しきれていない面もあり、今後改善を図っていきたい。

(NHK側)

「徳島にNHKがあってよかった」と視聴者に思ってもらえるような地方局だからこそできる番組制作に今後も努めていきたい。

くさぬきドキッ! 「新型コロナ 医療崩壊は防げるか」

(総合 香川県域 4月24日(金)放送) について>

- 医療機関における発熱外来の取り組み、医療機関のない離島の現状、検査機関・保健所の課題、県内企業による遠隔診療用機器の開発などを取り上げていた。東京などの大都市は医療崩壊の危機に直面していたが、香川県の現状を丁寧に取り上げており、視聴者の関心に応えられていたと思う。一方で視聴者がNHKの発信する情報に触れる機会が増えている中で、視聴者に必要以上の不安や感染者への差別意識を抱かせないように、より一層の表現に配慮することが必要だと感じた。単に課題や危機的状況の紹介にとどまらず、改善策などの前向きな情報もほしかった。出演していた大河内惇アナウンサーや記者が緊張しているように見え、落ち着かなかった。視聴者の意識の向上につながるようなメッセージがあってもよかったのではないかと感じた。「医療政策に詳しい専門家」として匿名の人物が登場していたが、必要性が感じられず、あまり適切ではないと感じた。引き続き取材と発信に取り組み、地域放送局としての役割を果たしてほしい。
  
- 高齢化や離島の医療体制など課題を抱える中で、地域の医療崩壊をいかに防ぐかということを取り上げていて、4月24日という放送時期を考えると、県民の関心に合ったタイムリーな内容だったと思う。視聴者の感染予防への意識を高めるような内容となっていてよかったと思う。わずか半月前の放送だが、すでに社会状況が大きく変化していて、当然視聴者の必要とする情報も大きく変化していると考え。視聴者の



関心のある話題を見極めて、状況に応じた発信をしていく必要があると考える。「アフターコロナ」ということばも生まれているが、緊急対策のみでなく、長期的な視点で、ウイルスと共存する社会の展望や、今後の香川や四国全体のあるべき姿を模索するような番組の発信に期待したい。

- アナウンサーの衣装が黒を基調とした暗い感じなのが気になった。新型コロナウイルスの影響を取り上げる深刻な内容だとは分かるが、見ていて必要以上に暗い気持ちになった。取り上げる内容を考慮しつつ、どう番組の雰囲気を作るかについてはより検討してほしい。重いテーマにおいても、前向きに感じられる要素があったほうが視聴者は見やすいと思う。

(NHK側)

香川県では、3月中旬に初めての感染者が確認され、当初より地域経済への影響についてはニュースなどで多く取り上げていたが、医療についてはあまり情報が多くなかったため、番組でしっかりと伝えるべきだと考えた。4月上旬に県内の医療機関にアンケートを配付したところ、想像していた以上に深刻な実態や医療現場の苦闘が見えてきた。番組ではその実態を伝えることに重点を置いた。重いテーマをどのように扱っていくかは、今後検討していきたい。匿名の専門家に出演してもらったことについては、慎重に検討したうえで紹介した。現在いわゆる「自粛疲れ」に社会が直面しているなか、今後は前向きな話題も取り上げていきたいと思う。

<放送番組一般について>

- 2019年5月1日(水)のBS1スペシャル「ボクの自学ノート～7年間の小さな大冒険～」を見た。「自学ノート」の作成に取り組む中学生を取り上げていて、見ていてとても引き付けられた。小学校の宿題をきっかけに、自分の興味や関心を持ったことについて新聞記事などを切り抜いて感想をつづった「自学ノート」を作成しており、小学校卒業後も自発的に継続しているという。他人が読んで理解してもらえることを念頭に、レイアウトなどの見た目も工夫し、丁寧な文字で書き留める様子は本人の人となりを表しているように感じた。周囲の大人たちが最初は困惑しつつも、熱意に心動かされ、「自学ノート」の作成に協力していくようになったエピソードが紹介されていて、とてもよかった。また「自学ノート」の作成に取り組む息子を、温かく応援しつつも周囲の子どもたちとの違いを不安に感じる母親の姿が映し出されていて、親子の関係性、子どもらしさとは何か、画一性を求める日本の学校教育や社会についてな

ど、さまざまなことが考えさせられる内容でとてもよかった。

○ 4月22日(水)のサンドのお風呂いただきます「松山 道後温泉編」と、5月13日(水)の「愛媛編」を見た。日々の生活の疲れを「お風呂」で癒やしている人は多いと思うので、多くの人にとってリラックスして見ることのできる内容だと思う。今回は愛媛の家庭のお風呂を巡っていて、興味深く見ることができた。サンドウィッチマンの2人とゲストが家庭のお風呂に入り、その家族の物語を聞くというシンプルな構成だったが、とても楽しくて見やすい番組だと感じた。また5月15日(金)のひめDON!「愛媛のお風呂を大調査」は、「サンドのお風呂いただきます」の「番外編」と銘打って、本編にも出演していたタレントの横山だいすけさんがリモート出演していて、首藤奈知子アナウンサーとともに全国放送では伝えられなかった裏話などを展開していた。おもしろい取り組みだと感じて見ることができた。

○ 4月22日(水)のサンドのお風呂いただきます「松山 道後温泉編」と、5月13日(水)の「愛媛編」、5月15日(金)のひめDON!「愛媛のお風呂を大調査」を見た。どれもとても人情味があり、心温まる内容でとてもよかった。番組で取り上げた家庭やお風呂をどのように探したのか、見ていて興味を持った。こういう時期だからこそほっと一息ついて見ることのできる、楽しい内容だった。

5月6日(水)のBS1スペシャル「外出自粛の夜に オーケストラ・孤独のアンサンブル」(BS1 後 1:00~1:49)を見た。国内のオーケストラのトッププレイヤーによる自宅からの演奏をリモート収録していて、心癒やされるととてもよいものだった。

5月8日(水)と15日(水)に放送されたEテレの「らららクラシック」でも、2回にわたって「音楽にできること」と題し、世界の第一線で活躍する音楽家の自宅からの演奏を、最新技術を使ってリモートワークで伝える取り組みなどを紹介していて、こちらもとてもよかった。

○ 5月16日(土)のSWITCHインタビュー 達人達(たち)選「早霧せいな×増田明美」を見た。2018年6月に放送したものの再放送と紹介されていたが、今見ても興味深い内容だった。Eテレで夜の10時という時間にこのような番組を放送していることを知らなかったなので、今後は見てみたいと思った。

○ 「地球タクシー」は、有識者や専門家ではなく「タクシードライバー」という市井の人の人生観や地域のことなどを描いていて、とても斬新な構成だと感じた。知らない土地でタクシーを利用し、ドライバーから情報を収集した経験のある人は多いと思うので、見知らぬ地を紹介する番組の進行役には最適だといえる。「地球タクシー」というタイトルも壮大で視聴者の興味を引くものになっていると感じた。番組を見ると

少人数のスタッフで制作しているように見えて、世界の都市を巡る番組としては、その機動力は強みになると感じた。内容を5分にまとめた「5min. ドライブ」も、とても内容が濃くて見応えがある。取材対象となるタクシードライバーの選定など手のかかる部分もあると思うが、今後もぜひ発信してほしい。

- 平日夕方6時台のニュース・情報番組「ゆう6かがわ」を見ている。視聴者の関心が高い新型コロナウイルスについて、香川県内の情報を毎日丁寧に取材・発信しており、県民の期待に応えられていると思う。ニュース項目の一覧表示の際に、一目で新型コロナウイルス関連の内容と分かるようなアイコン表示をしていて、よい工夫だと感じた。「わが家がイチバン！」というコーナーを新設し、自宅で楽しめる情報を発信しているのも今の時期に適している。四国の各放送局をつないで新型コロナウイルス関連のニュースをリレー形式で伝える取り組みは、四国のほかの3県の情報を視聴者が知ることができるようになったという点で、非常に意義のあるものだと感じた。四国のニュースを伝える取り組みは、新型コロナウイルス関連情報にとどまらず、今後も何らかの形で続けてほしい。「ゆう6かがわ」では、4月から五味哲太アナウンサーが新たにメインキャスターを担当しているが、違和感なく進行をしており、安心して視聴できている。引き続き県民にとって必要な情報を発信し続けてほしい。

(NHK側)

新型コロナウイルスによる影響が長期化している中で、視聴者の状況を考慮した情報発信に取り組んでいる。家庭内のできるさまざまな時間の過ごし方を紹介する「わが家がイチバン！」や、休校中の子どもに向けて県内の学校の先生が勉強の参考になる情報を紹介する「学びを深掘り」など、視聴者の生活のためになるような発信に引き続き取り組んでいく。

(NHK側)

「わが家がイチバン！」は、緊急事態宣言下の中でも家の中で楽しんでもらえるように、という思いのもと、感染対策に十分配慮して制作している。「学びを深掘り」はまた子どもたちが休校措置の解除後に前向きな気持ちで学校に通えるようになってほしいという思いで制作している。なお、番組を制作する際は、取材相手やスタッフの感染症対策に十分配慮している。

- 感染対策で人々の在宅時間が増えることにより、結果的にテレビを視聴する機会や、テレビから情報を取得したいというニーズが増えていると思う。若者のテレビ離れが

指摘されているが、こういった状況下でNHKは公共放送として信頼できる情報や魅力的な番組を提供することで、多くの人が興味を持って見てもらうきっかけになるのではないかと思うので、ぜひしっかりと取り組んでほしい。若い世代はリモートというものの自体への適応力が高く、抵抗感もあまりないと思うので、今後もリモート収録の活用など新たな技術を取り入れ、今の時代の情報発信に取り組んでほしい。

- いわゆる「コロナ自粛」でテレビを視聴する機会が増えた人も多いと思うが、在宅時間の増加に応えるような番組が放送されていると感じる。家でも取り組める「超ラジオ体操」の動画がインターネットでも紹介されているのはよい取り組みだと思う。Eテレでは子ども向けの番組が多く編成され、5月16日(土)の「映画 若おかみは小学生」(Eテレ 後 3:25~4:59)の放送もよかったと思う。また「プロフェッショナル仕事の流儀」の「特別企画!プロのおうちごはん」シリーズでは、プロの料理人が、家庭でもできるレシピで自ら調理する様子を収録したものを紹介していて、時流に合ったよいものだったと思った。ただ、レシピで分量がすべて「適量」と表示されていたものがあり、もう少し視聴者にとってわかりやすい工夫がほしいと感じた。
- 「テレビ離れ」が叫ばれて久しい昨今だが、ステイホームでテレビの視聴機会が増える今こそ、新型コロナウイルス関連の正確で信頼できる報道を行ってほしい。ワクチンや薬、医療体制についての国際的な情報だけでなく、希望が持てるような前向きな報道など、多角的な情報発信に期待する。そういった取り組みを行うことが視聴者の信頼につながり、ふだんテレビを視聴してもらえるきっかけにもなると思う。
- 大河ドラマ「麒麟(きりん)がくる」と連続テレビ小説「エール」が6月でいったん放送休止になることが発表されたり、再放送や再編集の番組が増えたり、出演者のリモート出演が増えたりなど、新型コロナウイルスによって番組制作にも大きな影響が出ていると思う。新型コロナウイルスについてのマスコミからの情報発信は、東京と大阪の情報に偏って提供されている印象を持っていて、それが全国の状況であるような印象を与えているのではないかと気になっている。一方で、NHKが行っている平日午後の時間帯に全国の放送局をつないでローカルニュースをリレー方式で伝える取り組みは、全国各地の状況や事例を知ることができるとてもよい取り組みだと思う。また四国では平日夕方6時台のニュース・情報番組の中で、四国の各放送局をリレー方式でつないでニュースを伝える取り組みを行っているが、非常に有用で参考になると感じている。そのほかの時間帯も含め、今後も四国の情報を取りまとめて発信する枠を継続してほしい。新型コロナウイルス関連のNHKの情報発信について、視聴者の評価がどうなっているか、調査したものがあれば教えてほしい。

(NHK側)

新型コロナウイルスに関わる情報発信についての調査は、東京の編成局や松山局で取り組んでいる。情報の入手経路やどんな情報に関心を持っているか、NHKの取り組みへの評価などについて調査を実施している。情報の入手経路では、多くの方がテレビから情報を得ていることが分かったが、NHKのサービスにおいては、テレビ放送だけでなく、インターネットサイトやアプリを利用して情報を得ている方が多くいることも分かった。NHKの取り組みへの評価では、情報の信頼性・詳細性・安心安全において、相対的に見てよい評価を得ていることが分かった。新型コロナウイルス関連の情報発信を通じて、改めて公共放送の役割を再認識していただいた方も多いのではないかと感じている。

(NHK側)

高松局でも番組の見られ方などについての分析を行っており、新年度以降は地域のニュースや情報を伝える番組で、視聴率や接触率が増加している。視聴者の関心の高さがうかがえるとともに、NHKからの正確で信頼できる情報発信への期待の現れだと感じている。地域の放送局として、今後は新型コロナウイルスからの再起を応援するような放送やイベントなどに局を挙げて取り組んでいく。

(NHK側)

平日夕方6時台のニュース・情報番組の中で、四国の各放送局をつないでリレー方式で新型コロナウイルス関連のニュースを伝えるコーナーは5月22日(金)をもって終了する。四国各県では緊急事態宣言が解除されたこともあり、番組のスタイルを通常に近づけつつ、それぞれの県の情報発信に力を入れていく。四国各県の情報については、各局の平日夕方6時台のニュース・情報番組の中や、「四国らしんばん」などの金曜夜間の地域放送番組でしっかりと伝えていく。今後も視聴者の関心の高い新型コロナウイルス関連の話題を軸に情報発信していくことには変わりはないが、それ以外の情報ともバランスを取りつつ、地域の情報を発信していきたい。

NHK松山拠点放送局  
番組審議会事務局

## 4月四国地方放送番組審議会休会のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、4月20日(月)に予定していた四国地方放送番組審議会は休会となりました。

NHK松山拠点放送局 番組審議会事務局